

令和2年度 豊かなむらづくり全国表彰事業  
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

「夢を語り」「人を育て」「地域を創る」どりにむ農園構想 ～次世代へ～

- 団体名 まちしたちくしゅうらくえいのうじつせんかいぎ 町下地区集落営農実践会議（代表 たなか けいじ 田中 恵治）  
○所在地 やまがたけんにしおきたまぐんしらたかまち 山形県西置賜郡白鷹町

○むらづくりの背景・経緯

白鷹町は、山形県の南部、置賜盆地の北端に位置し、町下地区は、町の中心部と隣接、最上川の右岸に位置する比較的平坦な地域である。

集落の主産業は農業であるが、一戸当たりの経営面積が少ない個別完結型農業を営む農家がほとんどで、養蚕業の衰退による農家所得の減少、荒廃桑園地の拡大、営農者の高齢化、担い手不足など多くの課題を抱えていた。一方、水田の汎用化の進展とともに野菜類のハウス栽培に取り組むなど町内農業をリードする先進的な地域でもある。

こうした地域が抱える様々な課題について、地域住民を巻き込み解決するため、平成元年「町下地区集落営農推進協議会」を設立、「町下地区営農ビジョン」を策定し課題解決に取り組み始めた。なお、むらづくり体制や営農ビジョンは、情勢変化にあわせて「町下地区集落営農実践会議」、「どりにむ農園構想」に形を替え、着実に実践されている。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

基盤整備を契機として、平成16年度に作業受託協業組織「土里夢ファーム」を設立、水稻育苗の作業受託、協業経営を行っている。翌17年度には町への働きかけが実現し「白鷹町産直市場どりにむ農園直売所」が建設され、管理運営の指定を受ける形で営業を開始した。直売所の開設により施設園芸作物に取り組む農家も増加し、当初は30名だった会員も、令和元年度には250名を超え、品ぞろえ、品質、対応等の良さから口コミで白鷹町内外に評判が広がり、販売額は増大している。また、地域外からの新規就農希望者を受入れ、世襲にこだわらない経営継承の仕組みづくりの実践とともに、毎年1～3名の研修生を受入れ、これまでに多くの新規就農者を育成してきている。



直売所の開店町の行列

（2）生活・環境整備面

地区民の集会所である「土里夢（どりにむ）館」では、地区民のふれあいと話合いの場だけでなく、三鷹市民や海外から嫁いだ花嫁との交流会など様々なイベントが開催されるとともに、子ども会の学習活動、農業者の技術交流や農産加工（ジュース加工）が行われている。

また、直売所が設置されたことで、農産加工に取り組む女性が飛躍的に増加している。

これらの取組は、農家だけが先導して企画・開催するのではなく、非農家や女性が積極的に立案や企画に参加し、互いに協働した形で行われている。



地域のイベントは女性や非農家が活躍